

ちいくりよく 地育力通信

～子どもたちと地域の未来を拓くために～

第6号 2009年3月13日 発行

編集・発行：飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課
TEL0265-22-4511内3571 FAX0265-23-8996 E-mail shougai@city.iida.nagano.jp

飯田市キャリア教育推進フォーラム

1月23日、飯田人形劇場に於いて、『飯田市キャリア教育推進フォーラム ～大人への一步 社会へ挑戦～』が開かれました。

5日間の職場体験学習を経験した飯田西中学校2年生の生徒が、受付・舞台の配置転換・司会を担当。直前までリハーサルを積み、そして、いよいよ本番を迎えました。

受付を担当した生徒は、「お迎えする」というおもてなしの心を込めて、来場者にハキハキと声をかけています。

体調を崩してしまった生徒のピンチヒッターとして、急遽加わった生徒もおり、リハーサルではどう動いていいかわからない様子でしたが、本番では整然と協力して指示されることなく配置転換をこなしています。

司会者の生徒2名は、130人余りの参加者をまっすぐみつめ、背筋を伸ばし、堂々と一つ一つの言葉を大切にしながら会場中に響かせています。

生徒一人一人が、今の自分の役割と状況をしっかり認識し、主体的に動いている。見ている大人も圧倒される程の“自信に満ちた姿”がそこにあり、これこそが「キャリア教育」のねらいであると再認識させてもらいました。

飯田西中学校では、5日間の職場体験の事前・事後学習を大切にしています。自分が何を学びたいのか、何に挑戦するのかを明確にした上で職場体験に臨み、事後には丁寧に振り返り、友だち同士発表し合うことで学んだことがより深まり、お互い励まし認め合うきっかけにもなっています。

フォーラムの前半では『自分の将来に向けて』と題し、6名の飯田西中学校の生徒が自分の言葉で体験発表をしました。

「自分にとって働くとは・・・」
・協力し合うこと ・いないと困る人になること ・人の役に立ち、自分も楽しくなること ・自分の長所を存分に発揮すること…そして、そのために自分の個性をたくさんみつける。

日々忙しく働く私たち大人も、改めて大切なことに気づかされました。同時に生徒たちの発表から、5日間という貴重な体験を通してみえてきた自分の課題に向けて、一日一日を大切に勉強していこうという意欲が伝わってきました。



続いて、千葉大学教授「上杉賢士」先生の基調講演です。上杉先生からは、自分の将来をしっかりと歩いていくために、「自分でステキ！ 自分で大切！」という自尊感情をエンジンにし、「自分のことは自分で決める」という判断力をハンドルにして歩くことが大切である。この2つを、小さなうちからしっかりと育てていくことが大切であるということをお話いただきました。

そのためには、子供たちが家庭と学校だけではなく、いろいろな人と関わり体験することが大切である。殊に職場体験学習については、仕事や職場というリアルな場所で多様な人間関係を体験することができる貴重な体験機会であることを強調されながら、「『働く大人って美しい！』と実感させてやってください。『大人ってすごいな！』って圧倒してください。」と主張されました。最後に「少年は、必要とされてはじめて大人になる。あなたがいてくれてよかったと伝えてあげれば、若者は元気になる。『キャリア教育』とは『生涯教育』である。」とまとめていただきました。

続くパネルディスカッションでは、パネリストの面々の本音をお聞きすることができました。

5日間の子供の変化が見て取れて非常に良かったという保護者の立場からの感想や、職場体験の中で「世に出ると学問が必要だよ。今の勉強が将来きっと役に立つよ。」ということを見せてあげたという会社の社長さんのお話がありました。

一方で、5日間の職場体験の効果や意味はわかるが、大人数ゆえにどうしてもできないという大規模校の事情や、「全員が一律に5日間やれというのは無理。ゆるやかな個々の対応が必要なのでは・・・」という会場からの意見もあり、これからのキャリア教育の進め方について、改めて考える必要があることを確認できました。

私たち大人は、子どもたちに「カッコいい」「すごいな」「圧倒される」と思われているのでしょうか。次代を担う子どもたちのために、自分にできることは何なのか。改めて問い、自身の姿勢を正されるフォーラムであったように思います。

～シチズン平和時計 工場見学・時計組立体験～ 未来の“マイスター”は君だ！！

1月17日土曜日、シチズン平和時計で、『未来の“マイスター”は君だ!』が開催されました。時計の仕組みや時計作りに触れて「マイスター」と呼ばれる熟練した時計職人さんに少しでも近づいてみよう、という企画。まずは、会社の概要や時間・時計についての勉強をしました。

今年で還暦を迎えたシチズン平和時計(株)。この工場では、「エコドライブ」と呼ばれる光で動く地球に優しい時計を作っているそうです。省エネ・省資源・省スペースといった取組みも徹底されていて、本気で地球環境を考えながら時計づくりをしている会社であることがわかりました。

時間・時計の勉強では、最近よくお店でも目にするようになった「電波時計」のお話もありました。常に正しい時を刻むことができる電波時計。その正しい時刻の電波を発信している電波塔は、世界に5つあるうち2つが日本の福島県と佐賀県にあるそうです。

次に工場内を案内していただきました。マイスターさんが作る高級腕時計は、機械では作れない、とても細かい作業の積み重ねで作らなければならない。数ミリの小さなネジを、ピンセットで正確にはめていきます。見ていると気の遠くなるような作業ですが、マイスターさんたちは、すばやく正確に時計を仕上げていきます。

「マイスターさんって女性が多いんですね。」という参加者に「うちはもともと女性が多かったですよ。やはり細かい作業は女性の方が向いているんですよ。」と従業員さん。マイスターさんの一人に「細かい作業で大変ですね。」と言うと「やはり目が疲れますね。作っている時計はいいものですからずっと長く持たせますよ。」



いいながら、腕にはめている時計を誇らし



げに見せてくれました。機械にも出来ない細かい作業は人の手で作るなんて、やっぱり人の手ってすごいですね。

時計のベルトになるワニ皮も子どもたちに触らせてもらいました。「うえ〜っ」といいながらも、ワニの形をした皮を持ち上げてまじまじと見つめる子どもたち。

機械で時計を作っている作業所では、目の回るような速さで機械が時計を作り上げていきます。子ども以上に身を乗り出しているお父さんも・・・。

「1日に、この機械でどのくらいの時計ができると思いますか?」「1,000個」「もう一超え!」「1億個!」「それは多すぎるかな。正解は、10万個です。飯田市の人口と同じだけ作れるんだよ。」「・・・」子どもたちはあまりピンとこないようですが、大人は「へえ〜」

見学の後は、親子で時計の組み立てに挑戦です。女性マイスターさんたちが席を回って、分からないところを見てくれます。親子で顔を寄せ合い、時計を作り上げていきます。時折「こうだね」と顔を見合わせてはにっこり。マイスターさんが時計を横から見ては、「金属片が少し外に出てるね。きちんと入れてみて」などと丁寧に教えてくれます。言われた通りにきちんと子ども達ができると、マイスターさんは「そうそう、上手だよ。」と優しい笑顔で応えます。褒めてもらって、子どもだけでなく、お父さんお母さんもうれしそうでした。

電池交換が終わり、動くようになった時計は記念にお持ち帰りです。小さな未来のマイスターたちは満足そうに、今日1日の思い出も一緒に持ち帰っていきました。

平成20年度『みんなで子育てパワーアップ講座』を終えて



子育てに奮闘している地域の方々に、「子育てのヒント」「仲間作りのお手伝い」ができ、地域や行政、みんなでパワーアップをしたい、という願いのもと、子育て中のお母さん、お父さんやおばあちゃん、子育てサークルで活躍する方など、約40名が参加し、7月から12月までの全5回の日程で『みんなで子育てパワーアップ講座』が開催されました。

受講生さんたちの子育てへの真剣な思いを感じる講座となり、また魅力的な講師の先生方を迎えることができました。

妻の言葉で、子育て中の妻の『自分育て』を支えてあげるのは夫しかいないことに気づいたという、中央大学法学部教授の広岡守穂先生。『妻が僕を変えた日』と題して、人間には、自分をきちんとみつめてくれる人、認めてくれる人の存在が必要なことなどを、自身の子育ての経験をもとに語ってくれ、何人もの人がうなずきながら聞き入り、「夫にも聞かせてあげたかった」との声が寄せられました。

『子育てはハンディじゃなくキャリア』をテーマにお話してくれた東京世田谷区『アミーゴプリウス、LLC』代表の市川望美さん。自身の子育て中に合った子育て支援サークルに参加するうちに、地域や相互支援への関心を持つようになり、勤めていたIT企業の総合職を辞して子育てサークルの活動を始め、現在の会社を立ち上げるまでになりました。「今できることから始めてみましょう。皆で一緒にやろう、の気持ち大切です。」とお話してくれ、勇気づけられました。

自然のなかで体験できる体を使ったゲームや、落ちている木や葉っぱを使った遊びを紹介してくれ、自然を遊びの場や体験の場と教えてくれた信州大学経済学部の古屋頭一先生。「わたしは、いつも講義では『遊び心』と『楽しむ心』を持って帰ってもらっています。」と、お話のとおり、みんな童心に戻ったように楽しい時間を過ごすことができました。

飯田教育事務所の本村栄次先生は、「聞く人を尊重して話をしてください。子どもと正面から向き合い、常に相手の気持ちを考えてあげてください。」とお話をされ、マイナスイメージの言葉をプラスのイメージの言葉へ変えてみる逆転の発想などのグループワークを行いました。自分を認め、子どもを認めることを教えてくれました。

最終回では、飯田市公民館の社会教育指導員の大澤志那子さんに進行を勤めてもらい、グループワークを行いました。これまでの講座で印象に残った言葉を受講生さんたちに上げてもらったところ、受講生さんたちの子育てや人生に響いた言葉が確実にあったようです。グループごとに「子育てをパワーアップする企画」を考えました。絵が得意な人、スポーツが好きな人など、みんな自分の得意分野を活かして、イベントやテレビ番組などアイデア満載の企画が出来上がり、みんなのパワーに感心させられました。

今年度初めての開催で、期待と不安のなか始まった講座でしたが、子育てのヒントがほしい、仲間を作りたい、地域の役に立ちたいと思っている多くの方に関心を持って参加いただくことができました。この講座が少しでも皆さんの役に立って、さらなるパワーアップに繋がれば、うれしく思います。

青少年育成センター情報 Vol.3

第2回安全大会が開催されました

12月20日（土）に、飯田市文化会館にて第2回安全大会が開催され、交通安全・防火防犯・青少年健全育成の3つのテーマを柱に、展示や講演会、地域の事例発表が行われました。会場の外では白バイや地震体験車の体験コーナーの展示、会場の入口では教育委員が取り組む「結いタイム」や「まちかど博物館 親子職人講座 裂き織り」のパネル展示など多数のイベントがあり、会場を盛り上げていました。



まずは、『オレオレ詐欺』犯罪への注意を喚起する「オレオレダンス」のオープニングで始まり、安曇野警察署交通課交通事故捜査係長の山崎方人氏が、歌やモノマネで笑いを織り交ぜながら「高齢者の交通事故防止について」をテーマに講演が行われました。

事例発表会では、伊賀良地区の防犯活動、東野地区の交通安全、座光寺地区の交通安全、羽場地区の青少年健全育成の活動事例発表があり、羽場まちづくり委員会の発表では、「地域で子どもを守る合同会議」の活動として、子どもたちの登下校の見守りやあいさつ運動などの取り組みが発表されました。高齢化や地域の担い手の不足など、地域の抱える課題があるなかで、まちづくり委員会や学校など地域全体が協力し合い、青少年の健全育成に取り組んでいる様子が発表されました。



11月の全国青少年健全育成強調月間の活動報告

11月の全国青少年健全育成強調月間に合わせて、育成センターでは街頭啓発活動と有害環境排除活動を行いました。

街頭啓発活動

青少年育成センターの推進委員と教育委員会職員が合同で、駅や大型店舗など市内7箇所街頭啓発活動を行いました。今回は、『青少年の健全育成はまず家庭から』を主眼において、「健全育成にご協力を！」「家族みんなでご覧になってください。」と元気よく声を出しながら、教育委員会で取り組んでいる『結いタイム』のチラシとティッシュを配りました。



有害環境排除活動

青少年育成センターの推進委員と事務局で、市内のインターネットカフェやカラオケボックスの巡回巡視を行い、お店の方から次のようなお話を聞く事ができました。

- 高校生の飲酒や喫煙も以前より減った。
- 会員カード作成時に年齢確認をして、未成年者の出入りをきちんと管理している。
- 灰皿は貸し出しにして、貸し出す時に年齢確認をしている。
- カラオケボックスの個室内にカメラを設置して、中の様子を確認している。（一部店舗）
- 最近では、大人による迷惑行為が見られる。

4月1日より、国により「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が施行されます。子どもたちが、安全に安心してインターネットを利用できるように、インターネット事業者などへのフィルタリングサービスの提供義務化や、18才未満の子どもに携帯電話を購入、使用させる場合は、保護者とその旨を申し出ることが必要になります。これにより、家庭と事業者が、共に子どもが安心してインターネットを使用する取り組みが必要になります。